



## 答え合わせ・解説

問1	答え 4 地頭	地頭は、御家人の中から任命され、土地の管理や年貢の徴収を行いました。単なる管理役にとどまらず、次第にその土地での権力を強めていき、武士の地方支配の拠点となりました。特に承久の乱の後には、幕府が地頭を全国の荘園や公領に配置したことで、幕府の統治範囲が飛躍的に拡大しました。
問2	答え 1 御家人	御家人は、将軍から領地の所有権を認められる「御恩」を受ける代わりに、京都や鎌倉の警備、合戦時の軍役といった「奉公」の義務を負いました。将軍と御家人の結びつきは「御恩と奉公」という主従関係で成り立っており、これが鎌倉幕府を支える強力なシステムでした。
問3	答え 3 マルコ・ポーロ	マルコ・ポーロは父親らと共にヴェネツィアを出発し、数年かけてモンゴル帝国の都である大都に到着しました。彼は約17年間フビライ・ハンに仕え、中国全土を巡察して貴重な情報を得ました。帰国後に執筆された『東方見聞録』では、東洋の富の凄まじさや、日本の存在について詳細に記しました。
問4	答え 3 御恩	御恩とは、将軍が御家人に対して行う経済的・地味的な保護のことです。主なものとして、先祖伝来の土地の所有を認める「本領安堵」や、手柄を立てた者への「新恩給与」がありました。これに対し、御家人は軍役（戦いの際の兵士としての務め）や京都・鎌倉の警備などの奉公を果たす必要がありました。
問5	答え 1 フビライ・ハン	第5代皇帝フビライ・ハンは、領土拡大の一環として日本へ朝貢を求めました。しかし、鎌倉幕府がこれを拒否したため、二度にわたる遠征軍（元寇）を派遣しました。また、マルコ・ポーロの『東方見聞録』を通じて、日本を黄金の国ジパングとして世界に紹介したことで知られています。
問6	答え 2 方丈記	『方丈記』は、こうした激動の時代を生きた鴨長明による随筆です。作者自身が世俗を離れて山の中に住まい、人々の苦しみや災害の恐ろしさ、そしてこの世がいかに儚いものであるかを鋭い洞察で綴っています。「ゆく河の流れは絶えずして」という有名な冒頭文は、鎌倉時代の文学を象徴する無常観を端的に表しています。
問7	答え 3 運慶	「運慶」は、奈良の東大寺南大門に安置されている巨大な「金剛力士像」を、快慶らと共に制作した仏師です。筋肉の動きや表情までリアルに再現する写実的な作風は、当時の人々に衝撃を与えました。
問8	答え 2 防塁	防塁（石築地）は、博多湾岸に長さ約20kmにわたって築かれた石の壁です。これにより、元軍の得意とする騎馬戦術や集団行動を封じ込め、日本軍が待ち伏せや遠距離からの弓矢攻撃を行いやすい環境を作りました。鎌倉幕府の組織力と御家人の動員力が発揮された代表的な防衛事業です。
問9	答え 1 悪党	彼らは「悪党」と呼ばれ、有力な武士や農民などが混在した武装集団でした。法や権威に縛られず、独自の論理で武力を行使する存在でした。
問10	答え 3 世界の記述（東方見聞録）	帰国後に獄中で語った内容が記録され、出版されたのが『世界の記述（東方見聞録）』です。この書物には、当時の中国の繁栄や日本の富について書かれており、ヨーロッパの人々にアジアへの関心を抱かせました。
問11	答え 4 後鳥羽上皇	1221年、後鳥羽上皇は全国の武士に対して北条義時を討つよう院宣（命令）を出しました。しかし、幕府軍の迅速な対応により朝廷側は敗北し、上皇は隠岐へ流されました。
問12	答え 1 御恩と奉公	将軍が武士（御家人）の土地の支配を保障することや、新しい土地を与えることを「御恩」といいます。対して、武士は京都や鎌倉の警備をしたり、戦いの際に軍役を務めたりする「奉公」を行いました。この相互の契約関係が幕府の統治の基盤となりました。
問13	答え 2 御家人	御家人は、将軍から領地を安堵される「御恩」を受ける代わりに、戦時の軍役や京都・鎌倉の警備といった「奉公」を義務付けられました。彼らは幕府の制度を支える重要な存在であり、北条氏などの有力御家人は幕府の政治運営においても中核を担いました。
問14	答え 2 鎌倉文化	鎌倉文化は、質実剛健を重んじる武士の性格が反映され、力強く写実的な表現が特徴です。彫刻では運慶・快慶による力強い仏像が作られ、文学では『平家物語』のような戦いの様子を描いた物語が好まれました。建築でも、東大寺南大門に代表されるような、堂々とした様式が取り入れられました。
問15	答え 2 悪党	「悪党」とは、当時の法や幕府の秩序に従わず、荘園の年貢を奪うなど実力行使を行う武士たちを指します。幕府は彼らを「悪党」と呼んで厳しく取り締まろうとしましたが、社会が不安定化する中では抑えきれませんでした。